

加瀬処理区大規模雨水処理施設整備事業計画（川崎市）

（様式１）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	川崎市加瀬処理区は、下水道の整備着手から５０年以上が経過しており、合流管渠やポンプ場などの雨水処理施設の老朽化が進行してきている。これらの施設について適切な機能確保を図り浸水被害を防止するため、集中的な雨水処理施設の改築を実施する必要がある。
整備目標	① 本計画における対象降雨 ・ 本計画における対象降雨：５２mm/h ・ 目標とする理由：横浜気象台の１０年間の記録による５年確率降雨 ② 目標設定 i) 個人財産の保護の観点：５２mm/h 降雨時における浸水を防止する。 ③ ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について i) ハード対策 改築による施設の機能確保により ５２mm/h の降雨において浸水被害を防止することを目的とする。 ii) ソフト対策及び自助 施設整備で対象とする降雨量を上回る場合において、市による内水ハザードマップの公表などの情報提供、地域住民等による土のう設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、浸水被害をできるだけ小さくする。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	・ 有（令和３年２月１２日策定済み） ・ 策定予定			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・ 合流管渠の改築 排除面積 約 1,048ha ・ 加瀬ポンプ場の雨水ポンプ設備更新 排水能力 300m3/分 ・ 江川ポンプ場の雨水ポンプ設備更新 排水能力 300m3/分
			下水道管理者以外	—
		ソフト対策	下水道管理者	・ 内水ハザードマップの周知など ・ 下水道広報紙による大雨対策の広報活動

			下水道管理者 以外	・土のう提供（川崎市幸区役所など） ・防災ハンドブックなどによる大雨対策の啓発活動（川崎市幸区役所など）
	自 助	ハード 対策		・各戸土のう配備 ・開発行為における事業地内の雨水流出抑制 ・建物建替えに伴う高床化
		ソフト 対策		・「川崎市災害時要援護者避難支援制度」を活用した地域における共助による避難支援体制作り

年度計画（百万円）

名 称	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
合流管渠	1,440	740	800	200	3,180
加瀬ポンプ場	260	260			520
江川ポンプ場	300				300
計	2,000	1,000	800	200	4,000

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	・加瀬処理区内の重要な幹線等に対して耐震化が図られるとともに、ポンプ場の雨水ポンプ設備更新により、雨水排水機能を適切に確保する。（約 1,048ha、600m³/分）
放流先河川との調整状況	—
その他	・雨水流出抑制技術施設指針を定め、開発行為の際、事業地内に雨水流出の抑制施設を設置する指導を行っている。

(参考図面)

加瀬処理区

【事業内容】合流管渠の改築

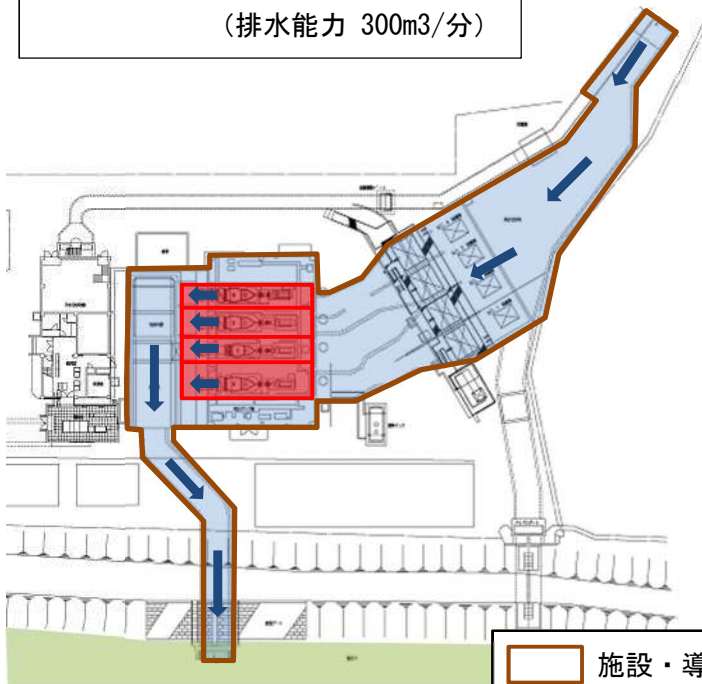
(排除面積 約 1,048ha)



- 計画対象区域
- 地域防災計画に位置付けられた施設等
- 緊急輸送路
- 整備済の管きょ
- 整備予定管きょ
- P 整備済ポンプ施設
- P 整備予定ポンプ施設

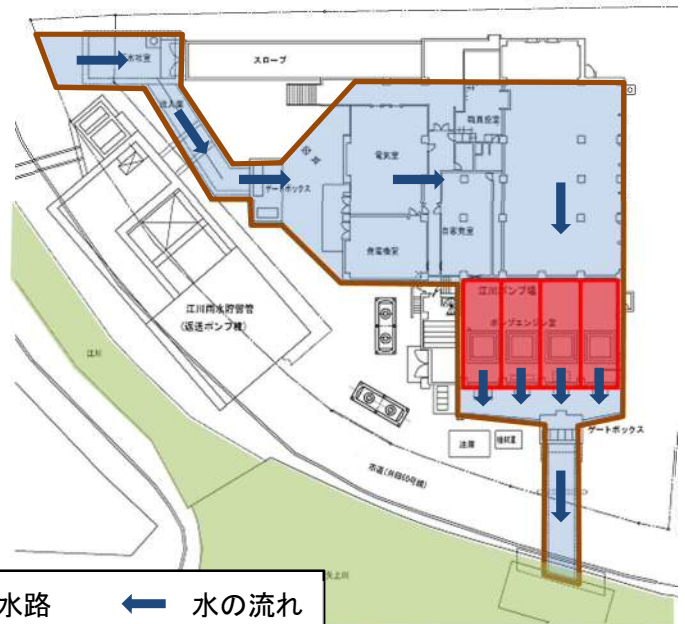
加瀬ポンプ場

【事業内容】雨水ポンプ設備更新
(排水能力 300m³/分)



江川ポンプ場

【事業内容】雨水ポンプ設備更新
(排水能力 300m³/分)



- 施設・導水路
- 雨水ポンプ設備
- 水の流れ
- 河川